

大原野灰方窯の調査－新発見の緑釉窯－

(財)京都市埋蔵文化財研究所 南 孝雄

1. 緑釉陶器とは

- ・珪酸塩を主成分とし銅の化合物を呈色材として加えた釉薬を施釉した陶器。素地を1,200℃前後で焼成し、釉薬をかけて800℃前後でもう一度焼成する。技術的には奈良時代の三彩陶器の流れを組む。しかし、奈良三彩が祭祀具や仏具を主として少量の生産であるのに対し、平安時代の緑釉陶器は食器を生産の主として大量生産を行っている。平安時代の緑釉陶器は新たに生まれた土器といえる。
- ・緑釉陶器のデザインに影響を与えたものとして、中国製の青磁・白磁・金属器などが考えられている。

2. 緑釉陶器の生産地

- ・緑釉陶器は9世紀前半から11世紀の前半にかけて平安京近郊（京都府）、東海（愛知県）、美濃（岐阜県）、近江（滋賀県）、防長（山口県）の地域で生産された。
9世紀前半：平安京近郊の洛北（岩倉）・尾張（愛知県・黒笹）
9世紀後半：生産地が拡大。洛北・東海（黒笹）に加え、洛西、尾張（鳴海、尾北）、東 美濃（岐阜県）、防長（山口県）となる。
10世紀：9世紀後半の生産地に加え、丹波（京都府亀岡市、篠窯）、近江（滋賀県）が加わる。
10世紀中頃から11世紀：丹波、近江、東美濃、尾張の一部、防長となる。

3. 洛西古窯跡群灰方1・2号窯の発見

- ・近代の砂防ダムを調査中に窯の灰原を偶然確認し、窯跡の発見に繋がる。
- ・窯は1号窯と2号窯の2基。山の斜面を浅く掘り込んだ窖窯。
1号窯：残存長4.1m、幅0.98m、深さ0.44m、床面傾斜角度28°。
2号窯：全長5.6m、幅1.1m、深さ0.42m、床面傾斜角度28°。

4. 灰方1・2号窯で生産された土器

- ・出土した遺物：出土した土器には須恵器と緑釉陶器素地。緑釉陶器素地には椀・皿・稜椀・段

皿・耳皿・三足盤、唾壺、香炉・陰刻文の椀・皿があり、須恵器には杯A・杯 B・鉢・壺・円面碗・風字碗・水瓶がある。窯道具の出土はない。

・時期は、洛西古窯群の中では石作1・2号窯の直後、9世紀の後半。

・高台の種類には、平高台・蛇の目高台・輪高台・糸切未調整がある。量的には、平高台が多く、そのほかは少ない。土器の表面のヘラミガキは平高台には粗いものが多く、輪高台には丁寧なものが多い。陰刻文を施す土器は輪高台に限られる。

5. まとめ－緑釉陶器生産史の中での灰方窯の意義－

- ・窯構造：これまで不明だった洛西の緑釉陶器窯の構造が分る。椀・皿などの小型品の焼成を主とした構造。
- ・精製品と粗悪品の2極生産。精製品は東海産の精製品を意識した可能性も。

参考文献

1. 高橋照彦「日本における三彩・緑釉陶の歴史的特質」『国立歴史民族博物館研究報告』第94集 2002年
2. 高橋照彦「平安期緑釉陶器生産の展開と終焉」『国立歴史民族博物館研究報告』第60集 1997年
3. 『日本の三彩と緑釉－天平に咲いた華－』愛知県陶磁資料館 2010年

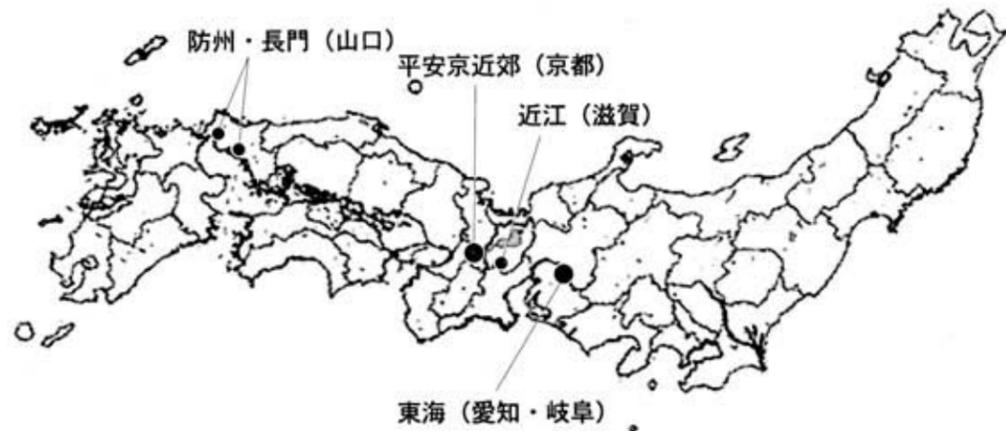


図1 緑釉陶器の生産地

表1 緑釉陶器各産地の編年とその併行関係

期年代	畿内			近江		東海					防長	
	洛北	洛西	蘇	藤生		黒笹	鳴滝	他の領域	尾北	東濃		
前I	栗栖野21											
	栗栖野13・20					I	黒笹14					I
850	本山官山	石作1・2				II	黒笹90	亀ヶ洞	海老池1	蘇岡47・48		II
	砂濤寺境内	天仏講池	(*)			III	黒笹89	経ノ前1・4	樽ノ風	蘇岡4・5		III
900	栗栖野3		前山2・3			IV	黒笹30	NN-282		蘇岡81・100	(大針3)	IV
		小塩1	小柳4	I	梶田							
950	(中の谷4)		黒岩1		II	作谷						
			西長尾5		III	(*)			粟山72		北丘15	V
1000												

備考：(*)は存在が想定されることを示す。「黒笹」「梶田」は黒笹野のそれぞれの地区。「他の領域」は近江・尾北地区以外の領域。「東濃」は多治良・恵那の総称。

表1 緑釉陶器各産地の編年 (文献1より)

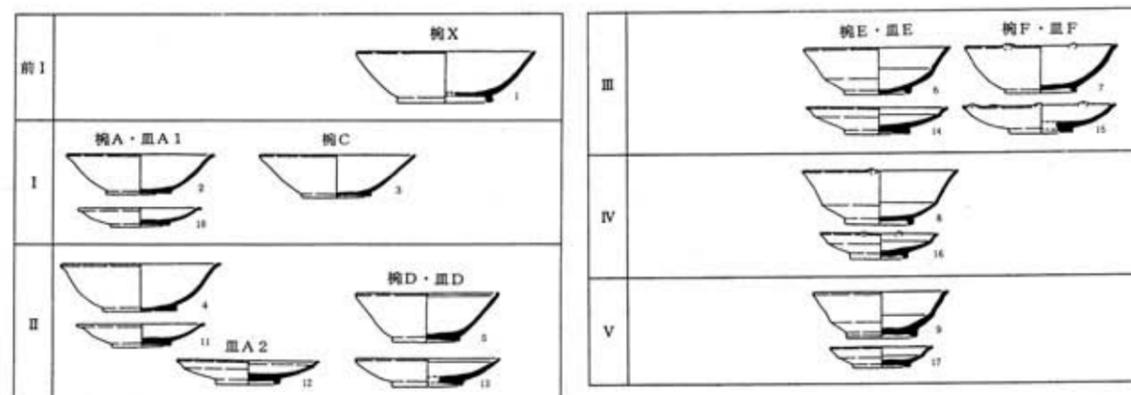


図2 平安京近郊窯の緑釉陶器編年図 (文献1より)

- 1 興福寺一乗院遺跡下土庫
- 2 雄略院S X 3
- 3 平城京S D 650 A
- 4・11 本山官山窯
- 5 西寺13次開基S D 1第2層
- 6・14・15 砂濤寺境内窯
- 7 平城京S D 650 B
- 8・16 前山2・3号窯
- 9・17 黒岩1号窯
- 10 平城京S E 311 B
- 12・13 石作1・2号窯

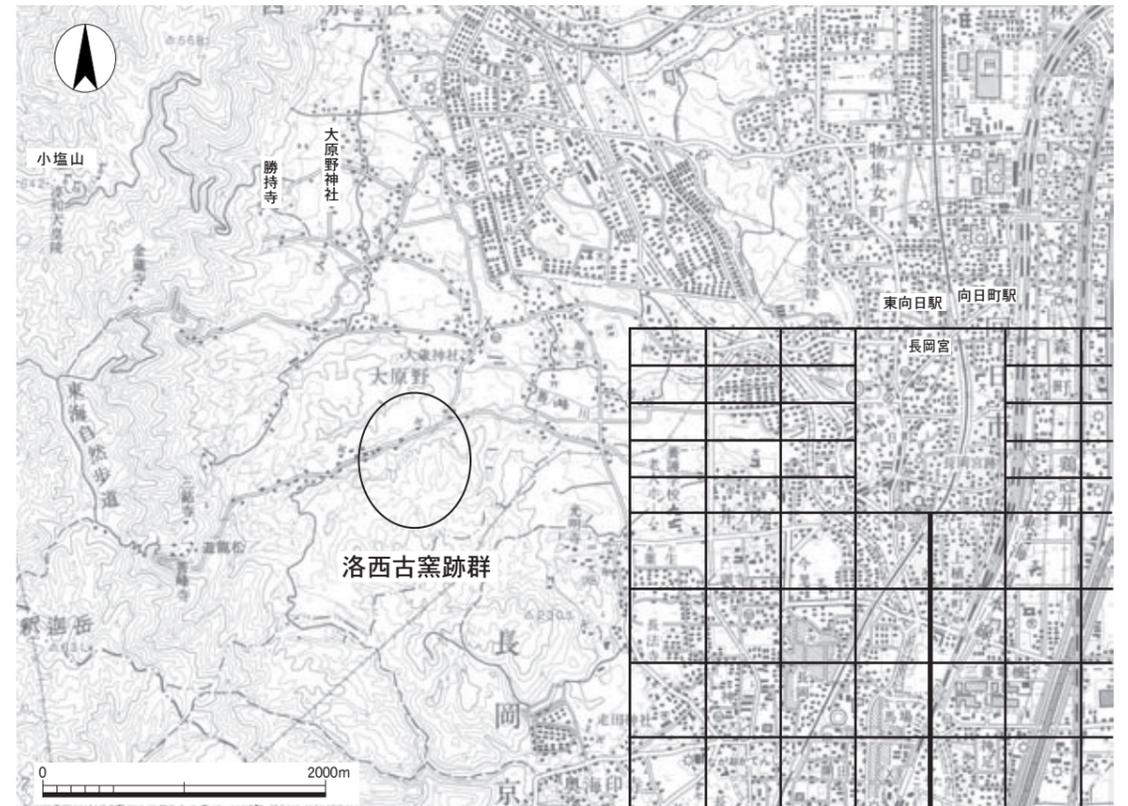


図3 周辺調査位置図 1 : 50,000

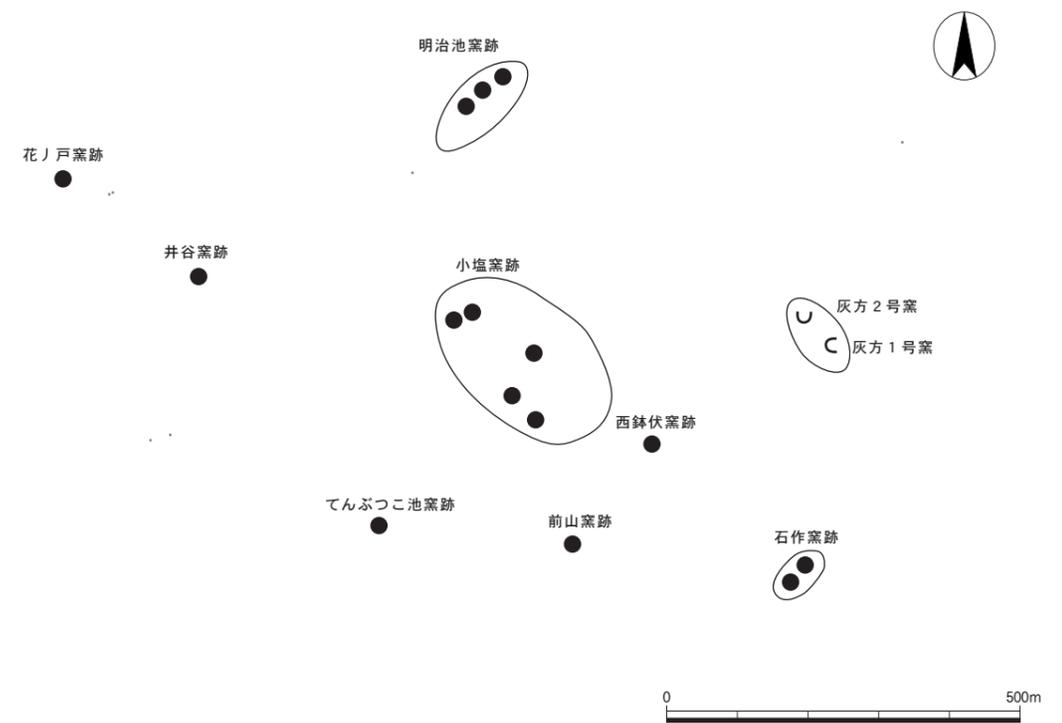


図4 洛西古窯跡群分布図 1 : 10,000

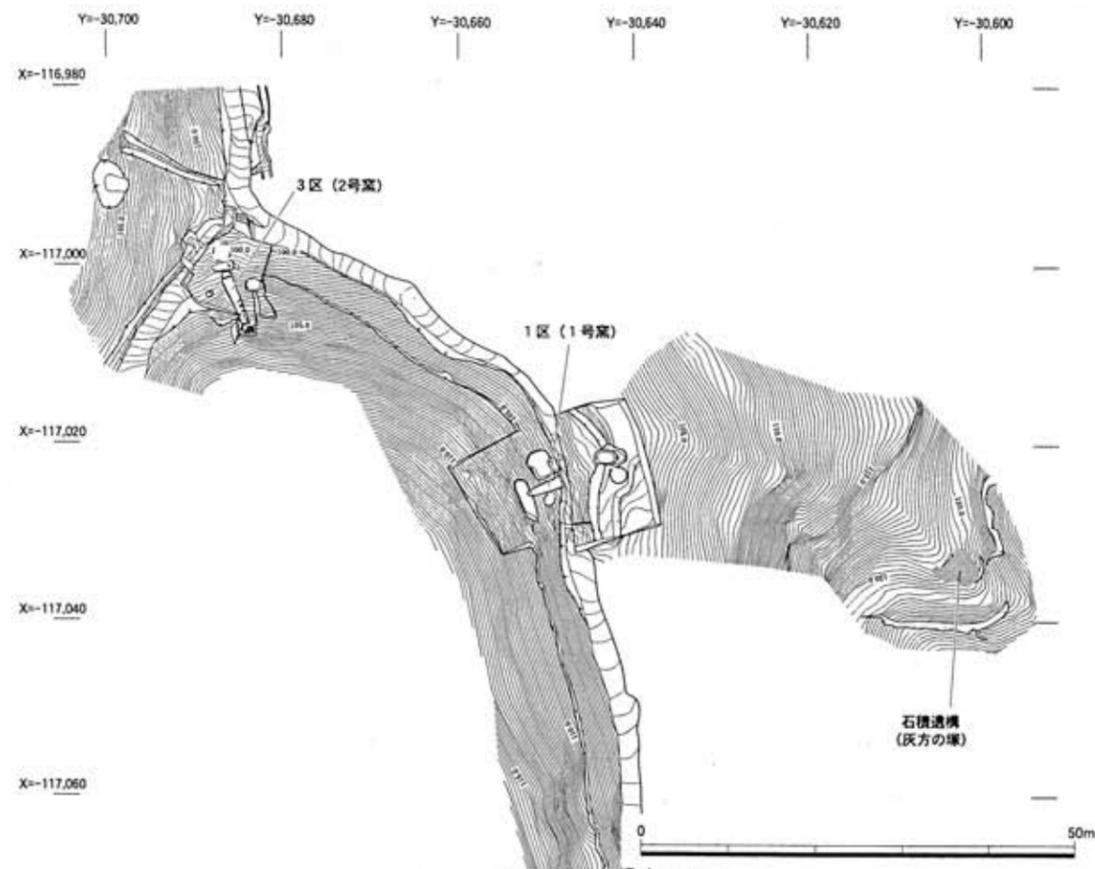


图5 灰方窯地形測量図

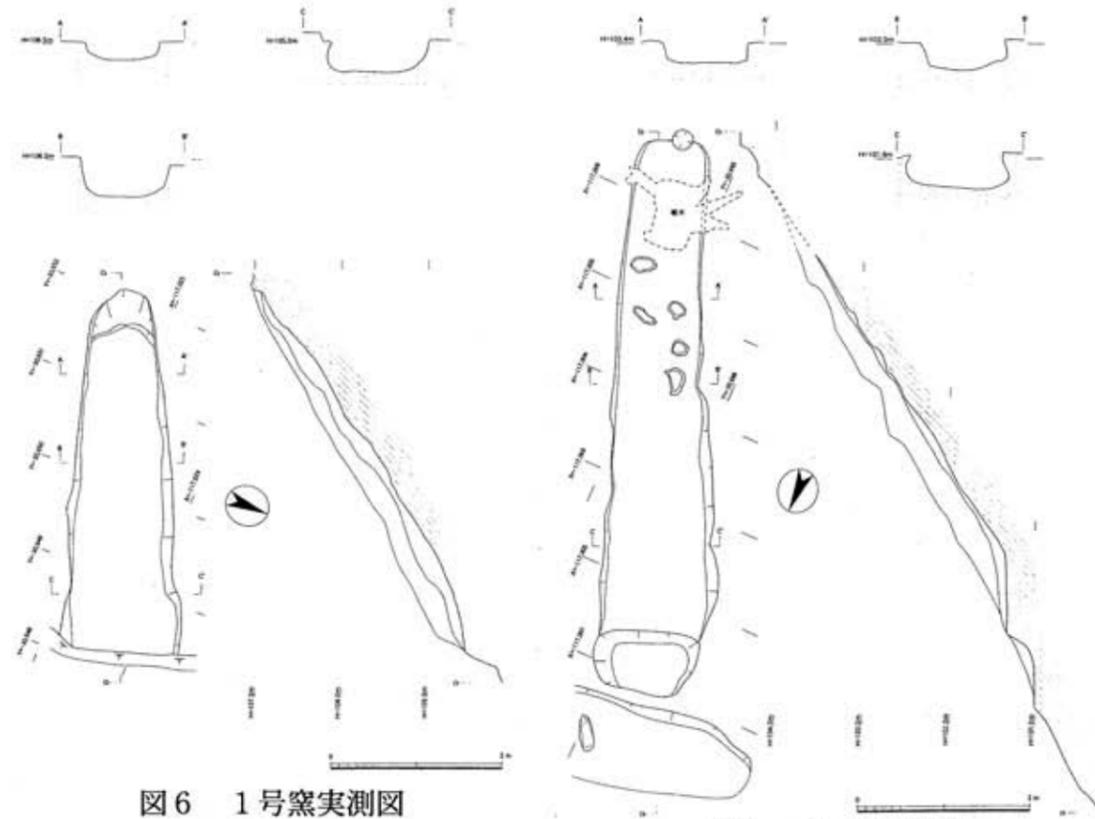
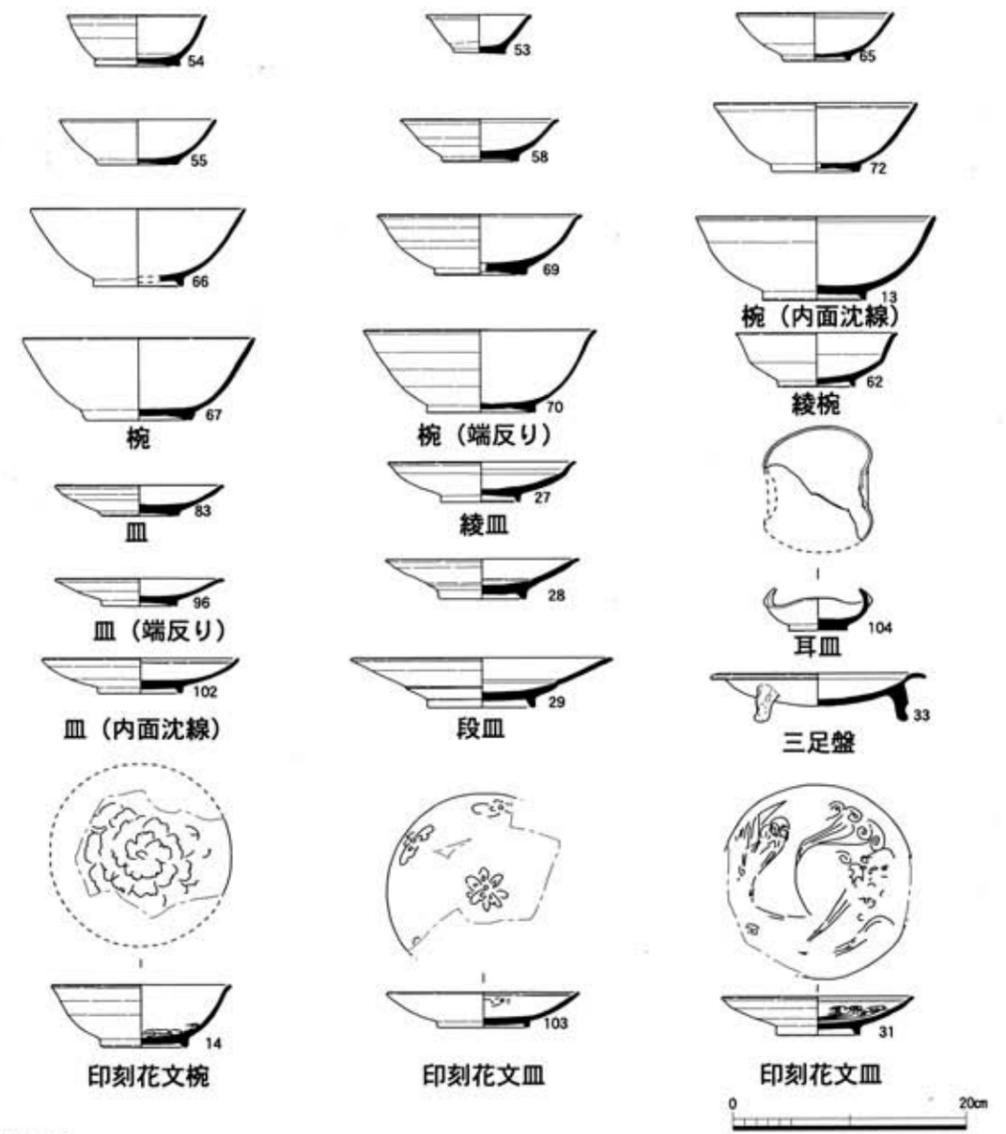


图6 1号窯実測図

图7 2号窯実測図

緑釉陶器素地



須恵器



图8 1号窯出土土器 (1/6)

緑釉陶器素地

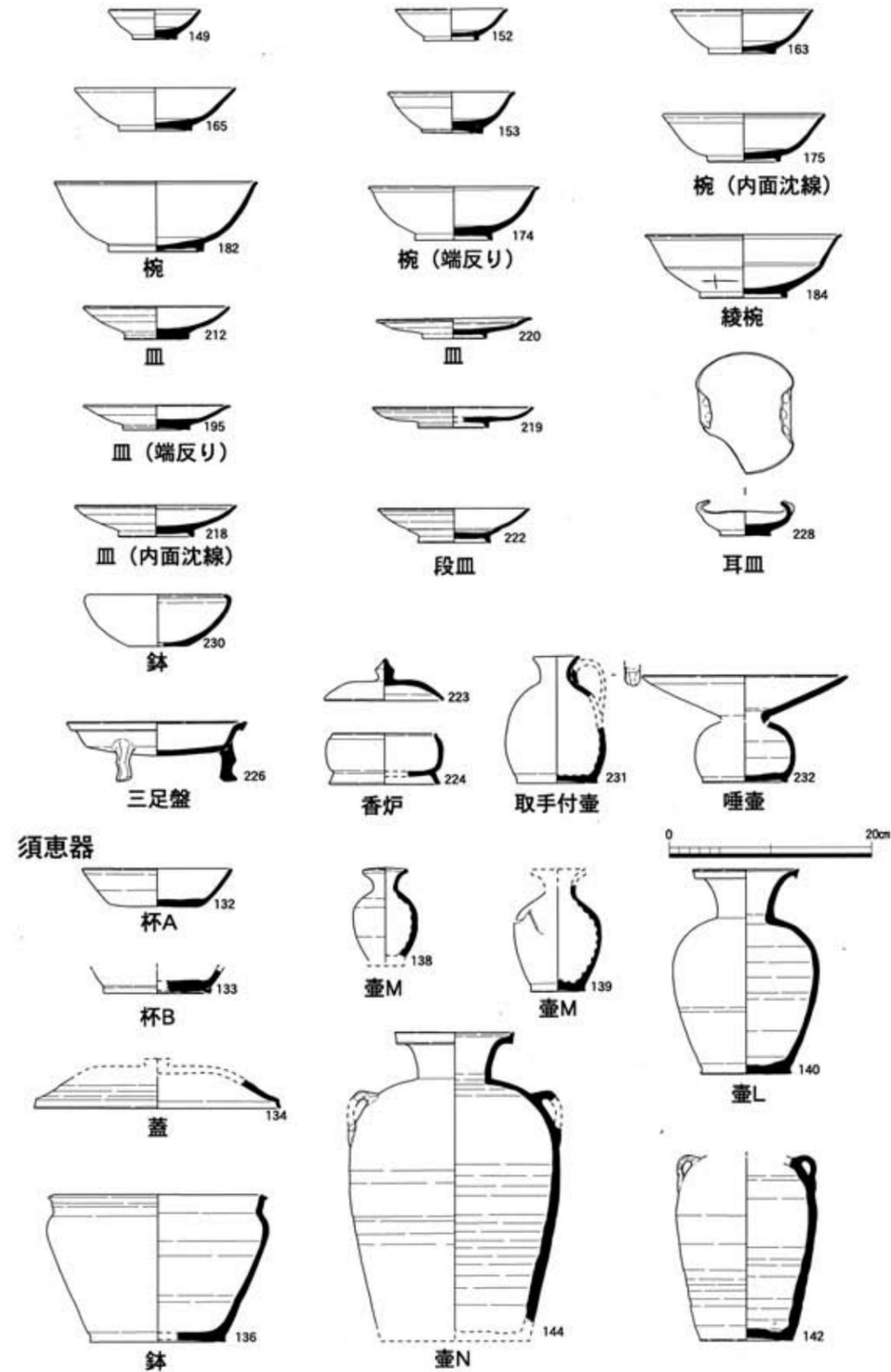


図9 2号窯出土土器 (1/6)

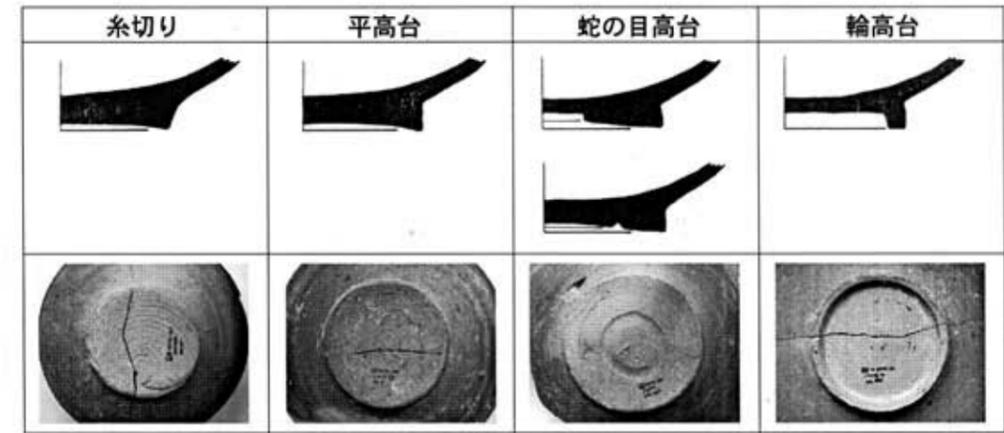


図10 緑釉陶器碗皿類高台形態分類模式図

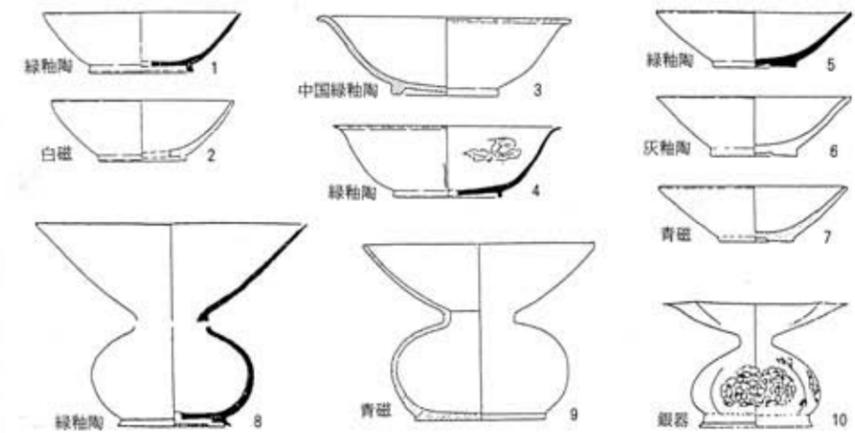


図11 緑釉陶器の系譜 (文献2より)

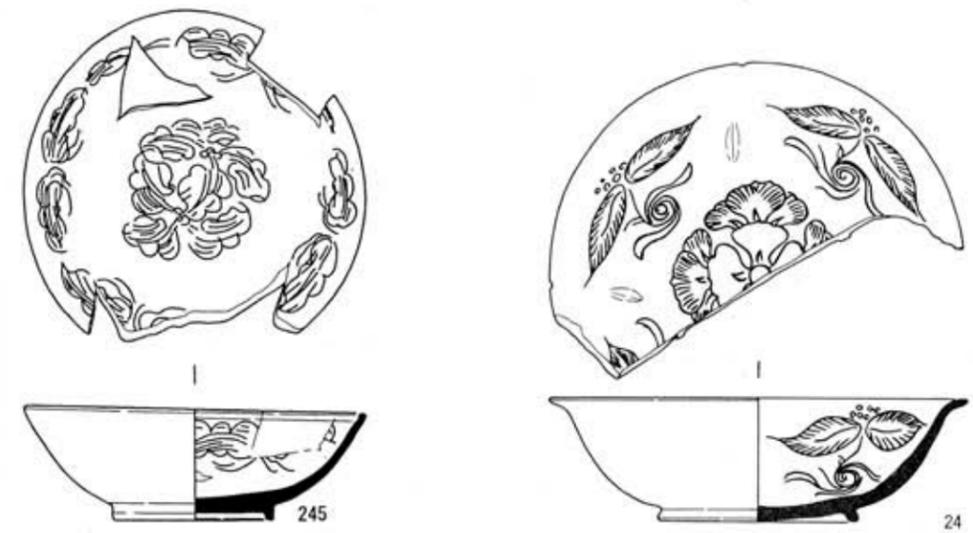


図12 東海産印刻花紋との類似性 (S=1/4)